

通し番号	4971
------	------

分類番号	R01-24-15-01
------	--------------

三浦半島地域における秋冬どりニンジンの作期と有望品種を明らかにしました

[要約] 三浦半島地域における秋冬どりニンジン栽培は、7月下旬から9月上旬に播種することで11月上旬から3月中旬まで連続して収穫できる。11～12月収穫では‘紅うらら’、11～2月収穫では‘アロマレッド’、12～3月収穫では‘彩誉’が適しており、播種機を利用して間引きを行わずに栽培する場合は株間を4～5cmとする。

神奈川県農業技術センター・三浦半島地区事務所

連絡先 046-888-3385

[背景・ねらい]

三浦半島地域では冬作の主要品目であるダイコン栽培の代替として比較的高い出荷価格を見込むことができる新たな品目が求められている。そこで、一部の地域で導入がみられるニンジンについて、三浦半島における作期や有望品種の選定、播種方法の検討を行う。

[成果の内容・特徴]

- 1 7月下旬から9月上旬播種で栽培することで11月上旬から3月中旬まで連続して品質の良いニンジン収穫することができる(図1)。
- 2 収穫時期が遅くなるほど根長が長く、葉長は短くなる(表1)。生育が早くて、揃いが良く、根部障害が少ない品種は、11～12月収穫では‘紅うらら’、11～2月収穫では‘アロマレッド’、12～3月収穫では‘彩誉’である(表1、図2)。
- 3 クリーンシーダやシーダテープなど播種機を利用して間引きを行わずに栽培する場合、株間を4～5cmに設定することで、手播きですじまきし、間引きを行って株間を6cmにした時と概ね同等の株間や収量となり、品質的にも問題ない(表2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 収穫期間や根部障害は、栽培期間中の気象条件により変動する。
- 2 高温期の播種となるので、播種後に寒冷紗の二重被覆等を行うなど、発芽までの水管理に留意する。
- 3 播種機を用いる場合はコーティング種子を用いる。

[具体的データ]

作期	7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
7月下旬播種 11~12月収穫	●				①			②		■	■	■						
8月上中旬播種 12~1月収穫		●			①			②		■	■	■						
8月下旬播種 1~2月収穫			●			①		②			■	■	■	■	■			
9月上旬播種 2~3月収穫				●				①				②		■	■	■	■	■

● : 播種、①、②は追肥時期、■ : 収穫期間

図1 三浦半島地域における夏まき秋冬どりニンジンの作型図



図2 有望品種の外観 (2018年12月6日撮影)

表1 各作期における有望品種の品種特性^z

作期	品種	根長 (cm)	葉長 (cm)	根重 (g)	葉重 (g)	根径 ^y			糖度 (°Brix)	規格別本数割合 ^x (%)				根部障害 (%)				根重 CV ^w (%)
						上部 (cm)	中間部 (cm)	下部 (cm)		2L以上	L	M	S以下	裂根	岐根	曲	青首	
11~12月 収穫	アロマレッド	18.2	50.9	220	42	4.8	4.2	2.9	7.3	36	30	16	18	3	8	0	0	43
	紅うらら	15.9	59.2	232	53	5.2	4.5	3.0	6.8	40	24	22	14	2	1	0	4	38
12~1月 収穫	アロマレッド	17.9	46.0	236	29	4.8	4.3	3.1	8.7	51	21	18	10	2	2	1	7	37
	紅うらら	17.1	53.5	290	42	5.5	4.8	3.6	7.6	78	13	8	1	2	3	0	18	33
	彩誉	15.1	56.6	278	42	5.9	5.1	3.7	7.5	80	13	7	1	3	1	0	8	29
1~2月 収穫	アロマレッド	18.2	34.8	184	25	4.3	3.7	2.6	9.9	22	24	28	26	0	1	0	2	37
	彩誉	16.9	45.2	243	34	5.3	4.3	3.3	8.7	61	23	11	5	1	3	0	0	33
2~3月 収穫	彩誉	18.4	30.5	210	36	5.0	4.0	2.4	8.7	38	42	18	3	1	1	0	3	25

z : 各作期の播種は11~12月収穫が2018年7月25日、12~1月収穫が8月10日、1~2月収穫が8月25日、2~3月収穫が9月7日に実施した。調査は11~12月収穫が11月6日と12月19日、12~1月収穫が12月6日と2019年1月22日、1~2月収穫が1月7日と2月20日、2~3月収穫が2月6日と3月11日に実施し、表の値はそれぞれの作期における調査を行った日の平均値で示した。品種特性は各品種10株、2反復、規格別本数割合、根部障害、根重の変動係数は各品種30株、2反復で調査した。y : 根径は上部10%、中間部、下部10%位置で測定した値。x : 規格別本数割合は2L以上:201g以上、L:151~200g、M:111~150g、S以下:110g以下とした。w : cvは変動係数。

表2 播種間隔の違いがニンジンの収量や生育、品質に及ぼす影響^z

品種	試験区	想定収穫本数 ^y (本)	収穫本数 (本)	収穫株率 (%)	対手播き想定収穫本数割合 (%)	換算株間 ^x (cm)	根重 (g)	換算収量 ^w (t/10a)	根部障害 (%)			
									裂根	岐根	曲	青首
彩誉	手まき	40	39	96	-	6.2	165	6.6	0	0	0	0
	株間6cm	40	31	78	78	7.7	194	6.3	0	0	0	0
	株間5cm	48	35	73	88	6.9	166	6.0	0	2	4	0
	株間4cm	60	40	66	99	6.1	174	7.1	4	6	4	0
紅うらら	手まき	40	44	109	-	5.5	176	8.0	2	0	0	0
	株間6cm	40	29	71	71	8.4	195	5.8	0	4	2	10
	株間5cm	48	35	72	86	7.0	181	6.5	0	2	2	4
	株間4cm	60	35	58	88	6.9	180	6.6	0	0	0	0

z : 2019年8月28日にクリーンシーダを用いて播種、2020年1月10日に各区1条2.4mに生育しているすべての個体について2反復で調査した。y : 調査した試験区2.4m内に想定される収穫本数、x : 換算株間は試験区2.4m内の収穫本数から換算した株間、w : 10a当たりの換算収量は条間40cm、換算株間(cm)及び根重(g)を用いて算出した。

[資料名] 平成28年度~令和元年度試験研究成績書 (三浦)

[研究課題名] ニンジンの安定生産技術確立

[研究期間] 2016 (平成28) 年度~2019 (令和元) 年度

[研究者担当名] 太田和宏

[協力・分担関係]